

序 説

今回の企画、「腸閉塞・イレウス」の特集は、編集会議において「やれたら絶対におもしろいが実現は困難が伴う」と判断されたものだったそうです。そんな企画がなぜか私のもとに舞い込んできました。

腸閉塞、イレウス……古から知られ、かつcommonな疾患、治療方針を誤ると命取りになり、そして画像診断が有用な病態です。一方で、どこまできちんと診断されているか、と振り返ってみるといかがでしょうか。

私はしばしば開腹手術を見学しに行きますが、診断名は間違っていないくとも、画像からは想像のつかなかった状況を目のあたりにし、自分の診断の甘さ、底の浅さを痛感することが少なからずあります。そこから推察するに、腸閉塞・イレウスの画像診断の一番の問題点は、目先の画像診断のみで結論付けてしまい、実際の腸管がどのようなになっているのかを想起するという、画像診断本来の目的がおざなりになっている所にあるのではないかと考えました。今回の特集の実現が、その解決のきっかけになればと思い、引き受けさせていただくことといたしました。

構成は、できるだけ実用的に診療に沿った内容となるように心がけております。

実際にどうなっているのかを想起するためにはまず実物を知ることが必要です。そこで、日本医科大学 消化器外科 山田岳史先生らに依頼し、開腹所見、治療について述べていただき、術中写真を豊富に盛り込んでいただきました。

画像診断の第一歩は腸閉塞かイレウスかの鑑別、次いでその原因検索です。小腸については公立甲賀病院 井本勝治先生ら、山形大学 豊口裕樹先生に、大腸については那覇市立病院 又吉隆先生に十分に解説をいただきました。

さらに一步踏み込んだ診断、特殊な背景下にみられるものについて、内ヘルニアの診断を昭和大学藤が丘病院 竹山信之先生らに、術後にみられるものを大分市医師会立アルメイダ病院 松本俊郎先生らに、小児については国立成育医療研究センター 野坂俊介先生に解説をいただきました。

ご多忙ななか、素晴らしい内容をご執筆くださいました各先生方には、この場を借りて深くお礼申しあげます。

各先生方からいただいた原稿を目にして真っ先に連想したのが、きれいな写真が沢山掲載された「旅行のガイドブック」です。ガイドブックはすでに決めた旅行先の情報を調べるのにも役に立ちますが、時間のあるときに手に取って目を通すのも楽しいものです。そのように活用していただき、いつも、いつまでも手元に置いていただけることを願って、今回のテーマを「腸閉塞・イレウスの画像診断ガイドブック」とさせていただきました。

初学者の方にとっては、少々とっつきにくい部分もあるかもしれませんが、しかし、経験を積んで改めて読み直すと、その都度期待に応えてくれる1冊だと思います。腸管マニアの方にはきっと最初から最後まで楽しんでいただけると確信しております。

それでは、奥の深い腸閉塞、イレウスの世界をご堪能ください。

谷掛雅人